

夫の友人の山本牧師が退院されて間もなく、夫人の愛子牧師が脳内出血を起こされたとのお知らせを受けました。畑仕事のため外出しておられた牧師が、雨で作業ができなくなり、帰宅された時、居間の床に倒れている愛子さんを発見、救急搬送されたとのことでした。虫の知らせ(?)、不思議な神様の配慮だったのでしょうか。優秀な病院で治療を受け、お嬢さんたちの手厚いサポートがあり、回復がめざましいとのご連絡もいただきました。軽井沢に出かける都合がありましたので、佐久総合病院に愛子さんをお見舞いに行くことが出来ました。

愛子さんと気軽に言ってしまうのは、彼女は私の大学の同期、また、学 Y の仲間、東京に住んでおられた時は元・学 Y のメンバーで読書会をしたりしていたからですが、彼女は C コースで牧師になられた方なのです。山本牧師が入院された時、お見舞いついでに彼女に「あなたはお元気なのね?」とお尋ねしたところ、「問題ないから健康診断なんか受けたことがない」と言っておられたのです。すごいと思うと共に心配な気持ちもありました。佐久総合病院で彼女がにこやかにベッドに腰掛けておられる姿を見て、本当に安堵し、とても嬉しく思いました。



ブルーデージー

ちょうど言語聴覚療法の時間となり、一緒に訓練室でその様子を見せていただきました。本を音読することによって、発語や視覚の様子を調べます。割合に大きな文字の、小学生向きに書かれた童話、「人魚姫」を読みました。また、2コマ漫画を読み解き、物の名前の正確さ、場面の状況の理解度を調べます。30分くらいの間、理学療法士は優しく、ヒントを与えながら、楽しく訓練をしてくれました。彼女の受け答えを聞くと彼女のお人柄がよくわかります。

「人魚姫」を読んだら、誰でも悲しく切ない思いになります。愛子さんは、登場人物の心や気持ちにまず関心を寄せる方でした。2コマ漫画の絵を見ても、場面の展開よりも、人物がどういう思いでいるかに、まず気配りをされます。人の気持ちに寄り添おうと無意識に思いが動くのです。これが彼女の個性なのだと思つづく感じました。病室に戻って、私の感想を彼女に言うと「そうかもしれない、ホホホホ!」と笑っておられました。



愛子さんはしばらく歩行のリハビリも続けますが、見事に回復しておられる様子に安心し、更なる回復をお祈りして病院を辞しました。その後、山本牧師のご自宅に招かれました。佐久穂町にログハウスを、お仲間と一緒に10年ほど前に建てられ、その家を開放し、教会員、友人、知人を招いて食事を振る舞い、楽しい場にしてこられました。私どももキング牧師研究会の折に2度ほど伺い

バーベキューをいただきました。愛子さんは当時、未完成でしたが「ここをデージーで一杯にしたいの」と願っておられました。彼女のデザインで美しい庭がお家の前に広がっていました。白い柏葉アジサイを前面の中央に配し、蔓バラのアーチがあり、曲線の遊歩道が作られていて、淡い色のノウゼンカズラ、たくさんのアジサイ、百合などが咲いていました。ブルーデージーも見つけました。



石垣には野イチゴが可愛い実をつけていました。この庭は、和みの時、憩の時を与える穏やかな雰囲気です。愛子さんは病院におられてもこの庭の手入れが気にかかるご様子とのことでした。庭の草花が愛子さんを待っておられます。きっとお元気になります。大切に療養の時間をお過ごしくださいね。